

第74回 スケート インターハイ

全国高校総体(インターハイ)スケート・アイスホッケー選手権は21日、盛岡市でスピードスケート、北海道苫小牧市でアイスホッケーが開幕した。フィギュアは前日に引き続き、横浜市で予選を実施。青森県関係は、スピードスケートの女子500㍍で石岡文那(下長中・山形中央)が5位、男子1500㍍で船場充嵩(八戸一中・群馬・嬭恋)が8位に入った。県内の高校生で入賞者はいなかった。アイスホッケーの八戸工は岡山理科大付に16-2、八学光星・八戸の合同チームが明大中野(東京)に12

-2でそれぞれ快勝。工大一は埼玉栄に3-7で敗れた。フィギュアのショートプログラムは、男子の田名部飛至也(八学光星)が28位、女子の藤原愛菜(同)が44位でいずれもフリー進出を逃した。22日も各地で3競技を行う。アイスホッケーの八戸工が白樺学園(北海道)、八学光星・八戸合同が駒大苫小牧(同)と対戦。スピードスケートは男女の1000㍍と女子3000㍍、男子5000㍍、フィギュアは男女のフリーを実施する。(取材班)

# 光星・八戸 2回戦へ

## 流れ変えた松本 5ゴール

アイスホッケー

○：八学光星・八戸合同 快勝。5ゴールの活躍を  
同は2点得点を奪っての 見せた松本(八学光星)



【八学光星・八戸合同】明大中野 第1ピリオド19分25秒、八学光星・八戸合同は松本(奥)が決めて2-0とする。北海道苫小牧市のne Diaアイスアリーナ

は「みんなのために走る 直後にも相手守備陣がうと思っていた。全力プレーが勝利につながったと笑顔でうなずいた。追加点をマーク。前田文序盤は呼吸が合わず、パスがつかない。第1ピリオド(P)は2得点にとどまり、「テンポが悪く、苦しかった(田中敏則監督)」。流れを変えたのが松本。「相手を上回る攻めをしよう」と、第2P開始早々に得点を奪うと、

▽1回戦

八学光星・八戸	2	1	0
明大中野	4	1	1
戸	12	6	1
戸	4	1	1

(東京)

【評】八学光星・八戸合同が2けた得点で大勝した。第1ピリオド(P)、大久保のゴールなどで先制。第2Pには松本の連続得点などで一挙6得点を奪って突き放した。守ってはキルプレーなどからの2失点に抑えた。

【八学光星・八戸】	【明大中野】
FW	FW
FW	FW
FW	FW
FW	FW
FW	FW
DF	DF
DF	DF
GK	GK
計	計

# 石岡 (中下長) 5位 女子 500

## スピードスケート

(岩手県宮入ゲート場)

113位までと青森県関係分

▽男子500㍎ ①山口撞親 (群馬・前橋育英) 36秒42 ②車司

⑧佐藤 (群馬・嬬恋) 37秒52

▽男子1500㍎ ①久保颯大 (北海道・白樺学園) 1分56秒59

②日下 (北海道・帯広三条) 1分57秒10 ③宮坂 (北海道・白樺学園)

1分58秒07 ④村上雄太 (八戸西)

2分5秒24 ⑤久保悠 (八戸西) 2分14秒48

▽男子1万㍎ ①佐々木泰雅 (長野・小海) 13分55秒73 ②黒坂 (北海道・帯広三条) 14分36秒98 ③雨宮 (長野・市長野) 14分44秒05 ④

佐藤颯馬 (八戸西) 16分41秒40

▽女子500㍎ ①奥秋静子 (北海道・帯広三条) 40秒19 ②笹

淵 (北海道・帯広南商) 40秒33 ③田

畑 (北海道・駒大苫小牧) 41秒30 ⑤

石岡 (山形・山形中央) 42秒06 ⑤上

田千聖 (八戸学院光星) 43秒25

▽女子1500㍎ ①関口綾野 (長野・小海) 2分8秒20 ②山田 (北海道・帯広三条) 2分11秒28 ③三井 (長野・東条都市大塩尻) 2分11秒98 ④吉田愛 (八戸学院光星) 2分23秒19 ⑤木村由菜 (八戸学院光星) 2分27秒34 ⑥長根結芽 (八戸学院光星) 2分27秒50

【フィギュア男子予選】39・82点でフリー進出を逃した田名部飛至也  
I K O S E 新横浜スケートセンター



## 青森県勢決勝ならず

フィギュア

(21日・コセー新横浜スケートセンター)

▽3位までと青森県関係分  
▽男子予選(シヨートプログラム)  
△ ①中田瑠士(愛知・中京大 中京 75・98点)②蛸原(東京・駒場学園) 65・43点③周藤(東京・I D学園) 65・17点④田名部飛至也(八戸学院光星) 39・82点  
▽女子予選(シヨートプログラム)  
△ ①島田麻央(愛知・中京大 中京 71・82点)②中井(千葉・勇志学園) 69・92点③高木(東京・東京女学院) 56・20点④藤原愛菜(八戸学院光星) 38・04点

### 田名部攻め貫く

○:フィギュア男子シヨートプログラムで、田名部飛至也(八学光星)は自己ベストを約6点下回り、フリー進出を果たせなかった。「収穫と課題が両方見えた演技だった」と振り返った。

「本番は失敗したけれど、できることをシャッジに見せられたのは大きい」

予選のシヨートプログラムでシーズンベストを更新したものの、予選敗退。勢いに乗り切れず、「うまくまとめられたが、昨シーズンより得点が出なかった」と悔しさをにじませた。

「本番は失敗したけれど、できることをシャッジに見せられたのは大きい」

予選のシヨートプログラムでシーズンベストを更新したものの、予選敗退。勢いに乗り切れず、「うまくまとめられたが、昨シーズンより得点が出なかった」と悔しさをにじませた。



【フィギュア女子予選】38・04点で予選敗退した藤原愛菜(八学光星)

し、自信につながる」。

一方、3本目のダブルアクセルは練習中の不安が的中し、回転不足でシングルに。「アクセルは一番大丈夫という気持ちがあった。やってしまった」と悔やんだ。

「出場選手を知った時に厳しい戦いになると思った」と田名部。だからこそ攻めの姿勢で臨んだ。「緊張したし、わくわくもした」と、勝負の奥深さを実感した様子で会場を後にした。

力強い曲調に合わせてほぼノーミス。ただ、序盤のジャンプでスピードが出ず、38・04点と40点台に届かなかった。好不調の波の少なさが特長の藤原。数日後に岡山県で始まる国民スポーツ大会に向けて「気持ちを出せるように頑張りたい」と明るく話した。